



女性の秘めた思い

「ないものねだり」ではなく「あるもの活かし」後藤寺まちづくりの発起人は、市と地域団体の5人の女性です。まちづくりに女性が参加する機会を増やしたいとの思いで「ないある後藤寺実行委員会」を組織。福岡県男女共同参画センター「あすばる」と共催で女性の視点を活かした地域活動を応援する事業を始めました。

後藤寺は、商店街や病院、学校、公共交通などの地域資源が豊富なまちです。しかし、人が減り、店舗が閉まり、活気が失われつつあります。この現状を「ないものをねだる」のではなく「あるものを活かす」ことで打破するため、まちづくりの協力者を市内外に広く

活かせるものが、このまちにはある。

平成29年8月「私たちのまちは、みんなでつくる」という熱い思いを持った人が集まり「後藤寺」新生の歴史が始まりました。栄えていた「あの頃」を取り戻すのではなく「これから」の繁栄を目指して――

募集。13歳～86歳、総勢44人のメンバーが集まりました。

強力な助っ人

今回の試みには、まちづくりのエキスパートに協力を依頼。猫さへ歩かないと言われた宮崎県日南市「油津商店街」を4年で再生させた木藤亮太さんをアドバイザーに迎えました。

毎月1回実行委員とメンバーが集まり、木藤さんを交えてグループごとの意見交換やフィールドワークなどを盛り込んだ全7回の連続講座を実施。まちづくりを考える人の輪は回を重ねるたびに広がり、最後は52人に達しました。

後藤寺のまちを実際に歩いて魅力や課題に気づき、未来予想図を考える中で、誰もがまちづくりを

自分ごととしてとらえ「私たちのまちは、みんなでつくる」という決意が芽生えたのです。

届け、私たちの思い

3月13日、今回の取り組みに関わったすべての人の思いや覚悟、まちを変えていくアイデアを「後藤寺まちづくりに関する提案書」として二場公人市長に提出しました。中学生、高校生、福岡県立大

自分ごと宣言

私たちが取り組みます！
私たちの力を貸します！
取り組みを提案し、協力します！
取り組んでいることを発信します！

シニア世代が、それぞれプレゼンテーションで提案を熱弁。二場市長は真剣に耳を傾け「実現できる提案が多い。みなさんと二人三脚で進めていきたい」と話しました。

まちづくりが今、動き出した

「後藤寺を応援してくれる人が集まってくれて、勇気をもりました。これからはたくさんの方とアイデアを共有しながら、まちづくりに取り組みます」。実行委員会のメンバーで、後藤寺商店街の公門友里絵さん、中島万智子さん、今村千恵子さんは力強く話しました。花石恵子実行委員長は「年齢

性別、居住地に垣根はありません。お互いの課題や立場を尊重して、世代の声を形にすることで「だれもが主役になれるまち後藤寺」の実現に一歩近付きました。これは大きな成果です」と語りました。

後藤寺まちづくりの取り組みは、ひとつの可能性を示しました。自分の意見を発し、対話を通じて人の輪を広げ、誰もが自分ごととして行動することは、市全体のまちづくりにつながります。これからのまちづくりは、行政だけでなく市民の力が必要ですね。みなさんの力で必要です。ともに手を取り合って、「あるもの活かし」でまちの未来を考えましょう。



木藤アドバイザー

後藤寺まちづくりの歩み

8月 グループディスカッション
後藤寺の地図を見ながら、まちの魅力と課題を掘り起こしました。



9月 公開講座
日南市・油津商店街の再生に向けた4年間の歩みを、木藤亮太さんが紹介。後藤寺のまちづくりのこれからを指南しました。

10月 フィールドワーク
後藤寺のまち全10行政区を10班で歩いて調査。隠れた魅力や地域資源をまとめ「まち歩き現状マップ」を作成しました。



11月 まちの未来予想図づくり
後藤寺の内外から人を集める方法など、さまざまな意見を年代別に出し合いました。

12月 公開講座
福津市副市長の松田美幸さんが「誰もが主人公になれるまち」と題して講演。

1月 未来予想図と最終提案のまとめ
まちづくりのために、自分ができていることを考えて宣言しました。(表紙参照)

2月 未来予想図のプレゼンテーション

3月 市長へのプレゼンテーション

50～60代の提案



料理や手芸などの趣味をいかしたワークショップ、子育て相談などに力を発揮できる場所を商店街につくりたい。また、公共交通の運賃割引があれば、孫を連れてたくさんの方が後藤寺に遊びに行けます。

黒土 敏彦さん

中学生の提案



電車やバス、家族の迎えを待つ間に、子どもが自由に集える場所が駅前や商店街にあるとうれしい。お小遣いで食べられる軽食があったり、勉強を教え合ったりできる場所をつくりたいです。

岩本 美羽さん

高校生の提案



商店街の空き店舗に、毎日立ち寄ってくつろげる学生の休憩スペースがあれば、学生と地域の人たちとの交流が増えると思います。パンチやポスターの製作、掃除などは高校生が協力できます。

村上 来蓮さん

大学生の提案



大学生が住む商店街「シェアハウス商店街」を提案します。大学生が地域のみなさんと一緒に商店街でイベントなどに取り組めば、学びや成長につながり、新しいアイデアや活気は生まれると思います。

西表 美歩さん

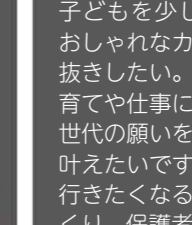
70～80代の提案



シニア世代にできることは、まちに出て若い人と意見を交わし、元気に過ごして医療費や介護費を減らすこと。そのためには、公共交通の整備が必要です。後の世代のためにも、私たちは協力を惜しみません。

長末 愛子さん

30～40代の提案



子どもを少し預けて、おしゃれなカフェで息抜きしたい。そんな子育てや仕事に追われる世代の願いを商店街で叶えたいです。親子で行きたくなる場所をつくり、保護者のネットワークでPRします。

浦田 良子さん